

道路事業

一般国道 461 号 おくさわ 奥沢バイパス (平成 21 年 3 月供用)

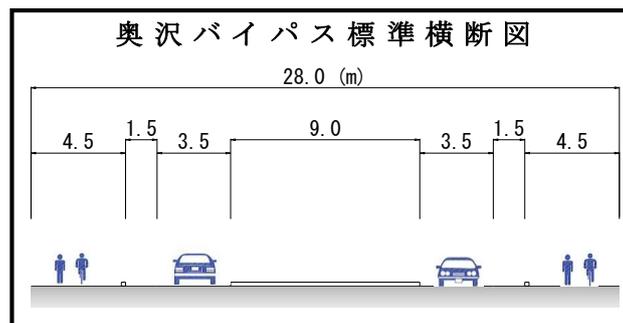
1 事業概要

一般国道 461 号は、日光市を起点に茨城県日立市に至る延長約 135 km の幹線道路であり、本県北部においては地域の産業・経済活動を支える道路として重要な役割を担っています。

奥沢バイパスは、大田原市上奥沢から同市南金丸までの 3,000m 区間において、バイパス整備を行うものです。



- ◆事業名：国庫補助道路改築事業
- ◆事業箇所：一般国道 461 号 奥沢バイパス (大田原市上奥沢～同市南金丸)
- ◆事業主体：栃木県
- ◆全体延長：3,000m
- ◆幅員：28.0m (車道 7.0m、歩道 4.5m 両側) 暫定 2 車線
- ◆総事業費：約 36 億円
- ◆事業期間：平成 8 年度～平成 20 年度



2 事業の目的・必要性

本事業区間は、国際医療福祉大学などの学校施設が立地しており、多くの学生が利用している区間ですが、現道は道路線形・縦断勾配が不良であり、自動車の走行性も悪く、広域交通のボトルネックとなっていました。

このため、栃木県では「安全で円滑な交通の確保」「大田原・黒羽間の交流の促進」「救急医療活動の支援」「歩行者・自転車利用者の安全確保」を目的に、平成8年度よりバイパス整備に着手し、平成21年3月に全線区間を供用しました。

3 事業の整備効果等

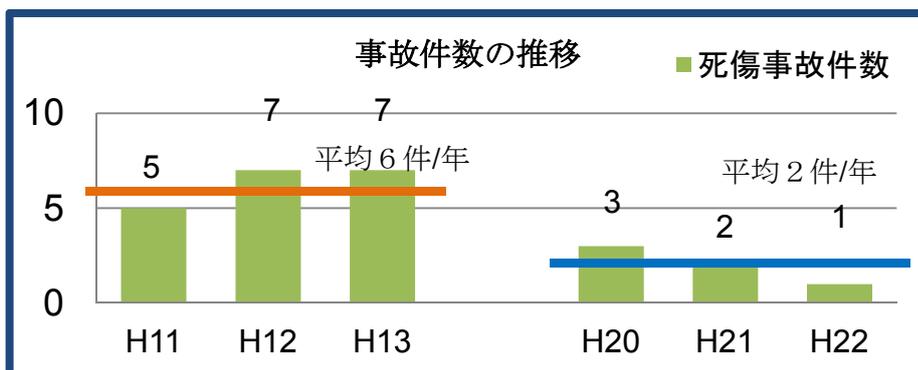
<費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化>

- ・事業費 再評価時 約31億円 → 完成時 約36億円
事業費増加の理由：暫定2車線供用時の横断構成に変更が生じたため。
- ・事業期間 再評価時 平成8年度～平成19年度 → 完成時 平成8年度～平成20年度
事業期間延伸の理由：用地取得の遅延

<整備効果>

本事業におけるバイパス整備によって、学生や職員が安心して通行できる環境が整備できました。また、沿線集落の生活環境改善に大きく寄与するとともに、円滑な交通も確保され、地域内の安全な交通環境が整いました。

【交通事故の推移】（整備前：現道部、整備後：バイパス部）



●死傷事故件数が減少し、安全で円滑な交通の確保が図られました。

【交通量の推移】（整備前：H11 現況交通量推計値、整備後：H24.5.17 実測値）



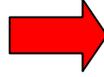
●交通量が増加し、大田原・黒羽間の促進が図られました。

【状況写真】

整備前（現道）



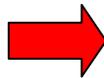
整備後（バイパス）



【通過時間】 奥沢交差点～金丸交差点 間の比較(ピーク時)

整備前

4分18秒



整備後

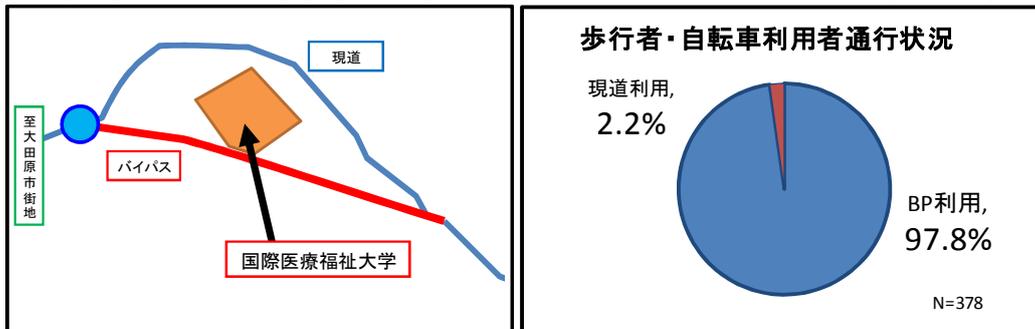
2分11秒



●搬送時間が2分7秒短縮でき、「救急医療活動の支援」が図られました。

【歩行者・自転車利用者の通行状況】

沿道に立地する国際医療福祉大学には、学生 約4,200人、教職員 約400人と合わせて約4,600人が毎日出入りしています。うち約5割が自動車、約2割が徒歩・自転車により通学しています。そのため、大勢の学生・職員が安全に安心して通行できる道路の整備が目標でした。



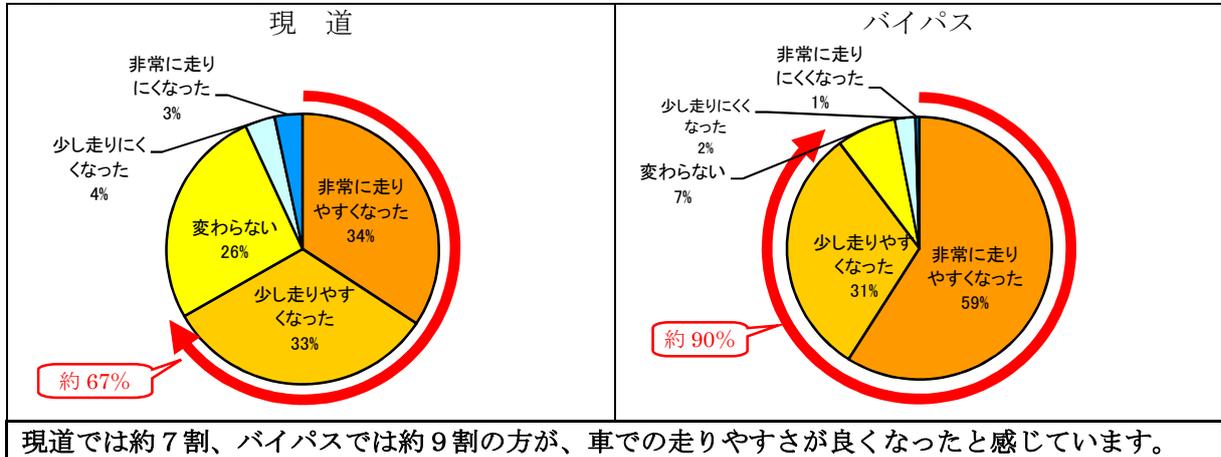
●歩行者・自転車利用者の大部分が歩道の広いバイパスを利用しています。
→「歩行者・自転車利用者の安全確保」が図られました。

4 地元の声

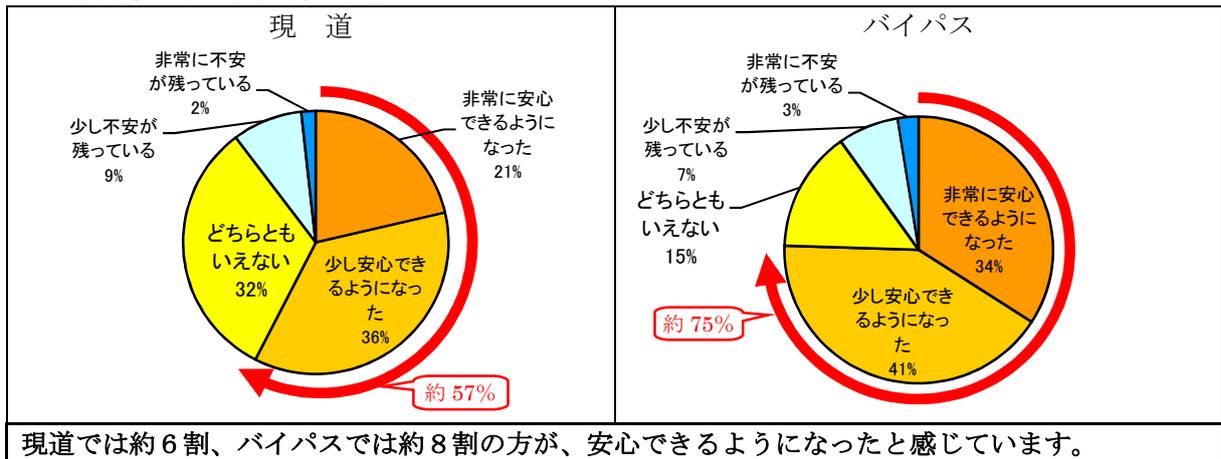
一般国道 461 号奥沢バイパスの整備により、生活や環境などにどのような変化があったかを確認するために地域住民や企業、学校などにアンケート調査を実施しました。

(回答数/配布数：418/503 件 回答率：83% ※有効回答数は設問により異なります。)

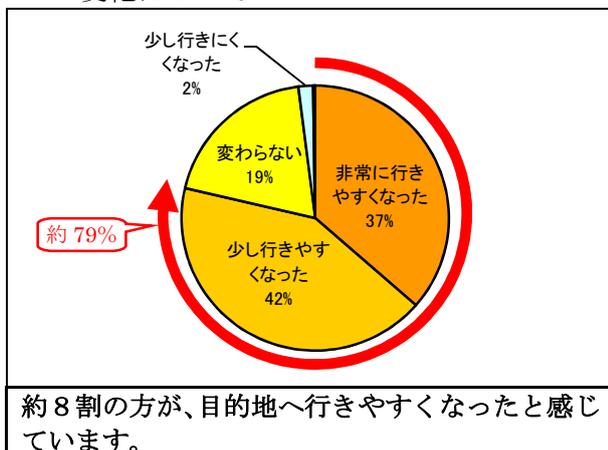
(1) 車での走りやすさについて



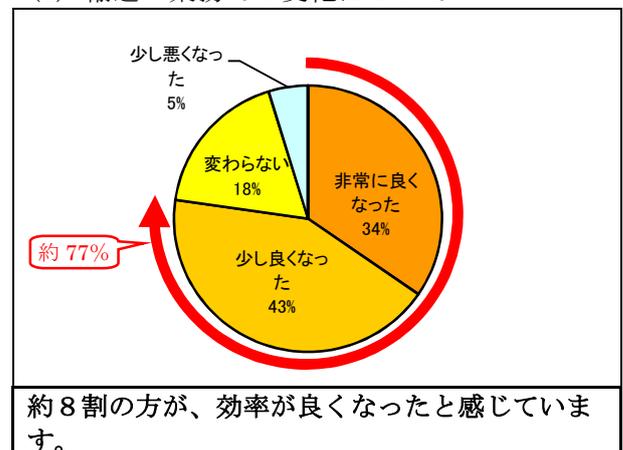
(2) 交通安全に対する安心感について



(3) 大田原市街地方面と黒羽方面との往來の変化について



(4) 輸送・業務での変化について



(5) 自由意見

- ・広い歩道が整備されたことにより、散歩やウォーキングする人が増えています。地域住民の健康志向に対する意識の改善が見うけられます。(60代 女性)
- ・整備前は狭く、すれ違うのも不便でした。バイパスが整備され、広くなり走りやすくなりました。(40代 女性)
- ・広い道幅と両側に歩道が出来たため、歩行者に気をとられなくても良くなったので、安心して車を運転出来るようになりました。(50代 女性)
- ・付近の住民が、横断歩道以外でも横断しているので、交通事故が危惧される。(50代 男性)
- ・広い道路により、地域の密着性が無くなり、高齢者の交流が遮断された。(60代 男性)
- ・バイパス沿道には民家が無いため、大変暗いです。多くの学生が、徒歩や自転車で利用しているので、街灯を増設してほしいです。運転する側も安心できます。(40代 女性)
- ・現道とバイパスの取付け角度が、平面的にも断面的にも悪いため、非常に曲がりづらい。非常に危険である。改良してほしい。(40代 男性)
- ・バイパスを通過する人には便利かもしれないが、地元住民は農耕車の横断が困難となり不便な面もある。今後改善されることを望みます。(60代 男性)

5 事業による環境変化

特になし

6 事業を巡る社会経済情勢の変化

- ・平成7年4月 国際医療福祉大学開学
- ・平成16年4月 道の駅「那須与一の郷」オープン（平成23年度来館者数 820,000人）

7 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

交通状況調査やアンケート調査結果により、事業の目的である「安全で円滑な交通の確保」「大田原・黒羽間の交流の促進」「救急医療活動の支援」「歩行者・自転車利用者の安全確保」は図られています。このため、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考えています。

8 同種事業への反映

本事業については、十分な効果を確認することができたとともに、アンケート調査では、更なる利便性向上の要望等、幅広い視点から多くの貴重なご意見等を頂きました。今後、バイパス事業の計画策定や工事の実施、供用後の維持管理等に役立てて参ります。

栃木県では、今後も県民の皆様のご意見をお聞きしながら、より良い道路行政の推進に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

栃木県 県土整備部 道路整備課

T E L : 028-623-2411 F A X : 028-623-2417
H P : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/index.html>
E-mail : doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

